日刊 動労千葉
86. 8. 19
No. 2323
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九二五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

動労革マル・千葉地本大会

自民党や千鉄局長を招待することが〝反ファシズムの闘い〟だと!?

ついに正体をあばみせた「動労革マル追随・右翼谷子」

もはや労働組合とは言えぬまで腐敗しきり、中曽根翼賛団体に転落した動労「本部」デッチ上げ千葉「地本」が千葉鉄局長＝草木や自民党代議士らを招待した「定期大会」を開催した。この「大会」は、デッチ上げ千葉「地本」＝土屋一派の腐敗・堕落していた正体をあますことなく露わにしてしまった。

『自民党』や『局長＝草木』をよぶのも反ファシズムの闘い？

この「大会」の来賓招待者とは、千葉鉄道管理局長＝草木、駅長らのマル生グループ「拓創会」、非現業のマル生グループ「創葉会」、そして何んと自民党代議士など労働組合とはおよそ相容れない連中とともに動労革マル＝松崎、鉄労地本＝勝又、真国労＝古川らが同席し、土屋一派におべんちゃらを言うまさに醜悪な者どもによる「大会」となった。

〝反ファシズムの闘いを強化・拡大しよう〟などとそれは立派な？　スローガンをかかげた「動労千葉地本情報」では大会の模様を「動労のこの間の取り組みに共感・共鳴する局長や、自民党代議士がかけつけ大成功をかちとった」と報じている。

この間、松崎は「タテマエよりホンネ」とか、「イデオロギーではメシは食えぬ」などとペテン的言辞をろうしながら、労働者を奴隷の道へ引きづりこもうとしている。自民党機関紙・「自由新報」で国労解体を誓約し、全国大会には運輸大臣＝三塚、国鉄総裁＝杉浦を招待、ダブル選では自民党候補支持、これほどにまで中曽根の手先となってよく働く松崎に対して局長や地元自民代議士がかけつけることは当然であっても、これほど組合員を愚ろうした話があろうか。

不安でしかたがない松崎

さらに、〝未来を象徴する定期大会〟などと大見出しがだされている。

鉄労や真国労と組合をつくり、そこでの労働運動を夢想して〝未来を象徴〟などといっているが動労革マルなどがそこへ入れるとでも思っているのか。鉄労・真国労においても然りである。

「六・二九マル生大会」を想起してみよ。主役は、職制・学士グループで、松崎なんぞは所詮〝提灯もち〟でしかなかった。いま当局のテコ入れによって全国で無数の職制・非現業グループの〇〇会・〇〇協議会などが発足している。この連中が主導権を握った労働組合は会社の御用機関、下請け機関のような労働組合と化してしまうことは明らかだ。

だから松崎は不安で仕方がなく自民党・総裁を大会へ　よぶということをやっているのだ。ペテンと破綻は明らかだ。

動労 千葉（ニセ）地本情報

未来を象徴する 第38回 定期地本大会

本大会には千葉鉄局長をはじめ多くの来賓の皆さんをお迎えしました。

来ひん（代表・敬称略）

千葉局局長	草木陽一		
拓創会	安形辰介		
創葉会	相原健雄		
公明党・衆議院議員	鳥居一雄		
自民党・衆議院議員	林大幹		
動労本部委員長	松崎明		
関東地評議長	吉崎邦男		
福祉事業協会	篠塚茂雄		
門司地本（派遣者）	内山雅文		
地本ＯＢ会会長	山下庄一郎		
鉄労千葉地本	勝又康之		
真国労本部委員長	古川哲朗		
〃 自動車地本委員長	鈴木政和		
〃 千葉地本委員長	生田幸夫		